

JF 日本語教育スタンダードに基づいた評価と 日本語能力試験の可否判定との関係 -最終報告書-

平成 29 年 4 月
国際交流基金

1. はじめに（調査の目的）

国際交流基金（以下、JF）は、「相互理解のための日本語」を理念に、JF 日本語教育スタンダード（以下、JFS）を開発し、2010 年に発表した。これは、日本語の教え方、学び方、評価のし方を考えるためのツールである。JFS は 2001 年公開の「ヨーロッパ共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages、以下 CEFR）」に基づいて開発されている。CEFR が汎言語的な枠組みであるのに対し、JFS は日本語の使用場面を想定して開発されたという特色がある。

JFS は、「相互理解のための日本語」には「課題遂行能力」と「異文化理解能力」の 2 つが必要だと考えており、前者に関わるものとして「みんなの Can-do サイト」を開発・提供している。同サイトでは、CEFR の能力記述文（以下、Can-do）を日本語訳した CEFR Can-do（493 個）と、それに関連する具体的な言語活動の例示を目的に JF で開発した JF Can-do（552 個）が参照可能である。これらの Can-do を学習目標とすることで、使用者は日本語を使って読んだり、書いたり、聞いたり、他者とコミュニケーションができるようになる実践的な学習設計が容易になる。

JFS の評価は、獲得した言語知識を用いて学習者が実際に「使える」程度に焦点を置いている。従って、「産出（話す・書く）」「受容（読む・聞く）」「やりとり（話す・書く）」における評価は、CEFR と同様、A1、A2、B1、B2、C1、C2 の 6 レベルで熟達度を表した各 Can-do に基づいて行われる（ただし、現時点では JF Can-do は A1 から B2 までの 4 レベルで構成）ⁱ。

一方、JF が日本国際教育支援協会と共催している日本語能力試験（以下、JLPT）は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、認定するための試験で、1984 年に 1 級から 4 級の 4 レベルで開始された。2010 年に「課題遂行のためのコミュニケーション能力」を測定対象とし、2 級と 3 級の間にレベルを新設して N1 から N5 の 5 レベルに改編する等の改定を行った。2016 年には、世界で約 75 万 6 千人が受験した。

JLPT が測る「課題遂行のためのコミュニケーション能力」は、表 1 の通り定義されている。これらが単独あるいは組み合わせることによって、JLPT の基本的な得点区分を構成している。JLPT の各レベルに応じた具体的な得点区分や合格点は、表 2 の通りである。

【表 1】 JLPT の測定する「課題遂行のためのコミュニケーション能力」の定義

言語知識	課題遂行に必要な、日本語の文字・語彙や文法に関する知識
読解	言語知識を利用しながら、文字テキストを理解して、課題を遂行する能力
聴解	言語知識を利用しながら、音声テキストを理解して、課題を遂行する能力

【表 2】 JLPT の各レベルにおける得点区分と合格点および基準点

レベル	得点区分 (得点)			合格点	基準点※
N1	言語知識 (文字・語彙、文法) (60)	読解 (60)	聴解 (60)	100	各区分 19/60
N2	言語知識 (文字・語彙、文法) (60)	読解 (60)	聴解 (60)	90	各区分 19/60
N3	言語知識 (文字・語彙、文法) (60)	読解 (60)	聴解 (60)	95	各区分 19/60
N4	言語知識 (文字・語彙、文法)、読解 (120)		聴解 (60)	90	38/120 19/60
N5	言語知識 (文字・語彙、文法)、読解 (120)		聴解 (60)	80	38/120 19/60

※JLPT では総合得点と各得点区分の基準点の 2 つで合否判定を行う。基準点とは各得点区分の必要最低点で、各得点区分のひとつでも達していない場合、総合得点にかかわらず不合格となる。この基準点は 2010 年の改定時に設けられたが、これは学習者の日本語能力を総合的に評価するためである。

先に述べたように、JFS は「産出 (話す・書く)」「受容 (読む・聞く)」「やりとり (話す・書く)」の各 Can-do に基づいて熟達度を評価するための基準を提供するのに対して、JLPT は「言語知識 (文字・語彙、文法)」「読解」「聴解」の 3 つの能力を多枝選択方式の筆記試験によって一斉に測る大規模試験である。すなわち、JFS と JLPT は日本語の熟達度を異なる側面から評価するものであり、両者は異なる測定対象および方法を採用している。

しかし、日本語教育界およびその周辺では、JFS のレベル設定で日本語を学習している者について、一般的には JLPT の基準でどのレベルの受験が可能なのか、また JLPT でレベル認定を受けた学習者について、JFS の基準でどの程度のパフォーマンスが期待できるのか、関連付けを求める声が高い。これらを受けて、JF は 2012 年 8 月に報告書「JF 日本語教育スタンダードに基づいたパフォーマンス評価と日本語能力試験の合否判定との関係 — 国際交流基金研修参加者を対象とした試行調査」を HP で公開した (<http://jfstandard.jp/publicdata/ja/render.do>)。これは、日本国内にある JF 日本語国際センター及び関西国際センターで行われた研修の参加者である日本語学習者 96 名を対象に、JFS に基づいて作成したオリジナルの評価基準による判定と JLPT 合否判定との関係について、試行的に調査を行った結果を報告したものである。調査の結果、「JLPT N3-N2-N1 と JFS A2-B1-B2 の間にゆるやかな連関がみられる」「N4 と N5 では学習者特性の違いにより JFS 評価と JLPT 合否判定が逆転している部分がみられる」ことが示された。

本報告書は、その試行調査後、2013 年～2016 年度にかけて実施した調査の結果を報告するものである。本調査は次の 2 つの目的のもと、試行調査よりも調査対象者を増やして実施された。

- ① JFS で特定のレベルにある日本語学習者に対して、適当な JLPT 受験レベル候補の参考情報を提供する。
- ② 特定のレベルの JLPT 合格者に対して、該当する適当な JFS レベル候補についての参考情報を提供する。

2. 調査の概要

2.1 調査期間及び調査対象地域

2013年～2016年に実施された JLPT に合わせ、6回の調査を実施した。2013年度は国内のみで調査し、2014年度以降は JF 海外拠点を中心に海外でも調査を行った。調査期間と調査対象地域・都市を、表 3 に示す。

【表 3】 調査期間と調査対象地域・都市

調査期間	調査対象地域・都市
2013年 12 月前後	日本 (JF 教師研修参加者)
2014年 7 月前後	海外 2 都市 (ジャカルタ、クアラルンプール)
2014年 12 月前後	日本 (JF 教師研修参加者) 海外 13 都市 (ソウル、北京、ハノイ、ホーチミン、ニューデリー、ジャカルタ、クアラルンプール、カイロ、マドリード、パリ、ブタペスト、メキシコ、サンパウロ)
2015年 7 月前後	海外 1 地域・2 都市 (台湾、ハノイ、ホーチミン)
2015年 12 月前後	日本 (JF 教師研修参加者) 海外 11 都市 (プサン、北京、天津、台北、ジャカルタ、マニラ、トロント、カイロ、ロサンゼルス、サンパウロ、パリ)
2016年 7 月前後	海外 4 都市 (北京、天津、ソウル、香港)

2.2 調査対象者

調査対象となった学習者 (以下、調査対象者) は合計 967 名で、内訳は国内での JF 教師研修 (長期研修) に参加した非母語話者日本語教師 127 名と、海外の日本語学習者 840 名である。

調査対象者の人数と割合について、JLPT 受験レベル別に表 4 に示す。実際の JLPT でのレベル別受験者割合を考慮し、上位レベル (N1, N2) により多くの調査対象者を得て割合が同等になるよう努めた。

【表 4】 JLPT 受験レベル別の調査対象者の割合 (単位: %、括弧内は人数)

JLPT 受験レベル	JLPT 過去 5 年 (~2016) (3,337,021)	2013~2016 調査 (967)
N1	31.8	36.8
N2	30.6	24.9
N3	17.4	14.1
N4	11.5	11.1
N5	8.7	13.1

試行調査で得ることができなかった中国語母語話者および韓国語母語話者のデータは、本調査では確保に努めて相応のデータを得ることができた。その他、東南アジア、南アジア、ヨーロッパで調査を実施し、多様な母語話者のデータを確保することができた。表 5 に本調査における JLPT 受験レベル別にみた調査対象

者の母語構成を示し、参考として表 6 に過去 5 年における JLPT 全世界受験者を同様の構成で示す。

【表 5】 JLPT 受験レベル別にみた調査対象者の母語割合（単位：％、括弧内は人数）

	N1 (356)	N2 (241)	N3 (136)	N4 (107)	N5 (127)
韓国語	12.1	7.9	7.4	2.8	3.1
中国語	77.0	62.7	21.3	24.3	18.9
東・中央アジア	1.4	2.1	3.7	0.0	0.8
東南アジア	4.8	15.8	37.5	36.4	18.9
南アジア	1.1	2.1	5.1	0.9	2.4
ヨーロッパ	2.8	7.1	14.0	22.4	39.4
その他	0.8	2.5	11.0	13.1	16.5

【表 6】 過去 5 年の JLPT 受験レベル別にみた受験者の母語割合（単位：％、括弧内は人数）

	N1 (1,062,295)	N2 (1,019,854)	N3 (579,176)	N4 (384,471)	N5 (291,225)
韓国語	16.7	11.1	13.4	7.7	3.1
中国語	74.6	67.9	39.4	35.2	32.5
東・中央アジア	0.7	0.7	1.0	1.5	3.2
東南アジア	4.5	13.1	32.9	35.6	34.4
南アジア	0.7	2.5	5.8	8.5	10.6
ヨーロッパ	2.7	4.5	7.2	11.1	15.6
その他	0.1	0.2	0.3	0.4	0.6

調査対象者の学習環境についても、試行調査では国内の JF 日本語国際センター、関西国際センターでの研修参加者のみであったが、本調査では JF 日本語国際センター教師研修者に加え海外各国の JF 拠点講座で日本語を学んでいる者や大学日本語学部・学科で学んでいる者（日本語学習頻度が相応に高く、卒業後も日本語を使って就職する者が多い）など、広がりを持たせることに努めた。

2.3 調査方法

調査は、同一調査対象者に対して JLPT 受験と教師による JFS 評価を実施し、それらの結果を照合して関連を探るという方法で行った。調査対象者は日本もしくは自国で JLPT を受験すると共に、JFS 評価のワークショップを受講した調査対象者の授業担当教師がその前後 1 ヶ月間に JFS 評価を行った。

3. 調査の実施

3.1 JFS に基づいた評価

3.1.1 評価方法

2011年に実施した試行調査（JF 日本語事業部 2012）では、「話す」「書く」技能を対象に A2・B1・B2 の JF Can-do 20～60 項目を用い、各学習者がどのくらい JF Can-do で描出された課題ができると考えられるか、複数の教師が個別に判定した。評価者は、事前に評価の観点や基準を理解するためのワークショップおよび評価シミュレーションを行った。技能別の評価を踏まえ、各講師は個別に両技能の「総合」評価を行った。そして、講師間で評価結果に差異があれば議論し、評価結果をすり合わせた。評価者間信頼性も確認する等、試行調査では JFS 評価の精度検証を行った一方、JF Can-do を用いたため 3 レベルの評価しか得られなかった。

試行調査の経験を踏まえ、本調査では調査が海外にも拡大し調査対象者数が増加したことや、熟達度のレベル判定に広がりを持たせ JLPT との関連をより細かくみること、調査にかかるコスト等を考慮し、試行調査の方法から以下の変更を行ったⁱⁱ。

- ・調査対象者を担当して授業を行っている教師 1 名による単独評価とする。
- ・CEFR 自己評価表を利用して 6 段階（A1～C2）のレベル判定を行う。

3.1.2 評価者訓練の実施

評価者（教師）を対象に 3 時間程度のワークショップを実施し、JFS および CEFR の理解やレベル感の習熟を図った。ワークショップは JF 日本語国際センターの専任講師が担当し、下記を資料として用いた。

- ① レベル評価表（CEFR 自己評価表、本報告書に添付）
- ② レベル評価表の注釈（JF Can-do の紹介、本報告書に添付）
- ③ CEFR 共通参照枠の全体的な尺度

①「レベル評価表」は、CEFR の「自己評価表」（吉島ほか 2004：28-29）に、評価者が評価を書き込むことができるようにしたものである。日本語版の他に、英語版、インドネシア語版を作成した。資料①は汎言語的で抽象的な記述であるため、具体的な日本語の使用場面がイメージできるよう、関連性する JF Can-do を選び、②「レベル評価表の注釈」として示した。JF Can-do は現時点で 4 レベル（A1、A2、B1、B2）しかないため、C レベルの判定には③「CEFR 共通参照枠の全体的な尺度」（吉島ほか 2004：25）を参照してもらった。そのため、レベル評価に際して、評価者は CEFR と JFS の両 Can-do を参照している。

JFS のレベルイメージを伝えるため、ワークショップでは各レベルに相当すると考えられるサンプルを提示してレベル感を共有・調整すると共に、サンプル判定を行った。その一例として、発話サンプルには「JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイテスト」（<https://jfstandard.jp/roleplay/ja/render.do> で公開）を用いた。また、評価に際して「レベル評価表の説明だけでは具体的にイメージしにくい」「チームで教えているとき誰が評価者になるのか」「教師の印象のみで客観的な評価ができるか不安だ」等の声が聞かれたが、これに応える FAQ を作成し配布することで、理解と基準の統一に努めた。

3.1.3 評価の実施

評価者は、調査対象者の JLPT 受験前後 1 ヶ月の間に、調査対象者の授業中における反応や教室内外の様子を判断材料として、ワークショップ資料①を使って「聞くこと」「読むこと」「やりとり」「表現」「書くこと」の各技能および「総合」について A1～C2 の 6 レベルで評価した。複数の教師が調査対象者の授業を担当している場合は、主たる評価者一人を定めた。評価者は、調査対象者全員の評価結果を集計用紙にまとめ、JF に提出した。上記の通り、本調査では一人の調査対象者に 6 つの JFS 評価が得られるが (5 技能 + 総合)、本報告書ではそのうち総合評価と JLPT 合否結果との対応を報告する。

表 7 に、他の 5 技能を代表して総合評価を用いることの妥当性を検討した結果を示す。表 7 は、例えば、総合評価で A1 と判定された調査対象者は 75 名で、そのうち「聞くこと」でも A1 と判定された者は 85.3 % である、ということを示している。全レベルを平均すると、総合評価と 5 技能の評価の一致率は 70～80 % であり、総合評価が他の 5 技能を代表することに大きな問題はないと考えられる。

【表 7】 技能別評価と JFS 総合評価のレベルごとの一致率 (単位：%、括弧内は学習者数)

技能	総合評価						平均 (標準偏差) ※C2 除く
	A1 (75)	A2 (364)	B1 (362)	B2 (143)	C1 (22)	C2 (1)	
聞くこと	85.3	80.8	79.0	74.1	81.8	100.0	80.2 (4.1)
読むこと	77.3	69.8	71.8	67.8	72.7	100.0	71.9 (3.6)
やり取り	92.0	84.3	74.0	71.3	68.2	100.0	78.0 (9.9)
表現	94.7	84.9	78.7	72.7	72.7	100.0	80.7 (9.3)
書くこと	84.0	79.7	79.8	76.2	50.0	100.0	73.9 (13.7)

なお、技能ごとの評価にばらつきがある場合、総合評価は③「CEFR 共通参照枠の全体的な尺度」を参考に判断し、迷うようであれば調査対象者をよく知る同僚と相談のうえ決めるようになっている。そのため、総合評価は技能別評価で最も多いレベルが選ばれるとは限らず、本調査では 967 名中 84 名 (約 8.7 %) の総合評価が技能別評価で最多ではないレベルとなっていたⁱⁱⁱ。

3.2 JLPT の実施

調査対象者は、JLPT 受験申込前に JF 日本語試験センターが作成した予備テストを受けた。そして、JLPT 受験歴を参考にしながら、予備テストの結果が予め設定された各レベルの受験相当範囲にあれば該当レベルを受験し、上下レベルの間にあり受験相当範囲に該当しない場合は調査対象者自身がどちらのレベルを受験するか選択した。なお、JF 長期研修参加者については、スケジュールの都合上、予備テストを受けることが難しかったため、JLPT 受験歴および来日直後のプレースメントテストの結果を参考に日本語国際センターで受験するレベルを指定した。

なお、表 8 にあるように、本調査対象者は実際の受験者に比べて JLPT 認定率^{iv}が高い傾向にある (どのレベルにおいても高く、差の最高は N2 の 27.2 ポイント)。本調査は、JF 講座受講中、もしくは大学日本語専

攻学科、大学院在籍等の日本語学習者から調査対象者を募っているため、日本語学習の機会に恵まれ調査に協力的な学習動機の高い集団であり、JLPT 受験者全集団からの無作為抽出とは言えない。また、予備テストの情報を参考に JLPT 受験レベルの指定を行った。これらが認定率とどのような関係があるかは今回の調査からは不明であるが、本調査において認定率が高いという点については、解釈の際に留意する必要がある。

【表 8】 連関調査対象者の JLPT 認定率（単位：％）

JLPT 受験レベル	調査対象者 A (2013～2016)	JLPT 受験者全体 B (2012～2016)	A-B (単位：ポイント)
N1	51.1	31.9	19.2
N2	68.5	41.3	27.2
N3	65.4	39.5	25.9
N4	63.6	40.6	23.0
N5	60.6	54.9	5.7

なお、同一対象者が受験した予備テストと JLPT 本試験結果に関して、相関関係や平均点の上昇などを検討した。その結果より、簡便なテストで本番の得点・合否を予測して受験レベルを指定するという予備テストの機能について、一定の性能を備えていたと考えることができる。

4. 結果と考察

4.1 調査結果の概要

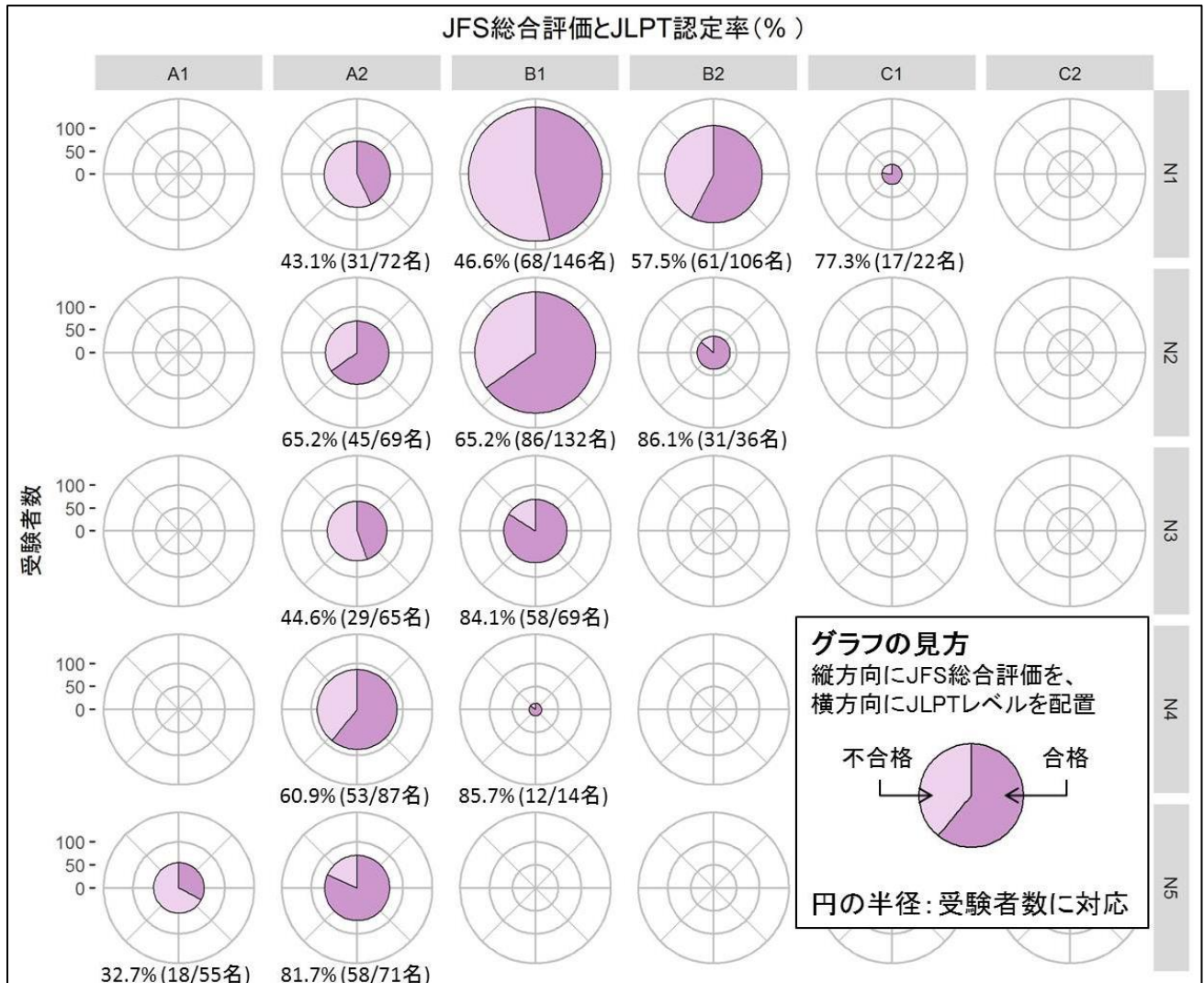
調査により得られたデータに関して、JFS の 6 レベルと JLPT の 5 レベルの組み合わせ（合計 30 セル）ごとに認定率を計算してまとめた結果を図 1 に示す。受験者数が 9 以下のセルについては、精度の観点よりグラフから外した。図 1 および表 5・表 8 より、全体的な傾向をまとめると以下の 4 点となる。

第一に、JFS と JLPT はレベル間で一対一対応は見られないという点である。JFS レベル A2 から B2 該当者の JLPT 受験レベルは複数あり、合格者も複数レベルにまたがっている。また、JLPT 受験レベル N1 から N5 の受験者および合格者は、JFS の複数レベルにまたがっている。

第二に、グラフ全体を見渡した際に、「JLPT レベルを固定した場合、JFS レベルが上がると当該レベルの JLPT 認定率は高くなる」「JFS レベルを固定した場合、JLPT のレベルが低くなると JLPT 認定率が高くなる」という関係が比較的多くのセルで観察されたという点である（そうならない部分も見られ、それらについては後述する）。

第三に、JFS の判定結果および JLPT の合否結果は、それぞれのスケールの特性だけによるものではないという点である。たとえば学習者の母語（表 5）や学習環境（大学で日本語を主専攻とし密に学習しているか、週 1 回程度の受講か等）など、学習者側の特性について吟味しながら注意深く解釈する必要がある。

第四に、各 JLPT 受験レベルにおいて、調査対象者の認定率は本試験受験者全体の認定率を全般的に上回っているという点である。図 1 を解釈する際にはこの点を考慮する必要がある（表 8、調査対象者の認定率はどのレベルでも JLPT 全体の認定率を上回っており、その差は N2 で最大で 27.2 ポイントであった）。



【図1】 JFS 総合評価と JLPT 認定率 (%)

4.2 JFS レベルからみた JLPT 受験レベルと認定率

図1において、JFS レベルを固定して縦方向に認定率の変化を見ると、JLPT のレベルが低くなるにつれて、JLPT 認定率が高くなるという関係が、B1 と B2 において観察された。しかし、JFS で A2 の評価を受けた対象者に関しては、セル (A2、N2) の認定率が (A2、N3) および (A2、N4) の認定率よりも高く逆転しており、上述のような関係は見られなかった。この点については4.4で触れる。

4.3 JLPT 各レベル合格者から見た JFS 該当レベル

図1において、JLPT レベルを固定して横方向に認定率の変化を見ると、JFS レベルが高くなるにつれてJLPT の認定率が高くなるという関係が、比較的多くのセルで観察された。ただし、セル (A2、N2) とセル (B1、N2) の認定率の変化はほぼ横ばいである。

4.4 認定率の動向が他と逆転している箇所について

本調査において、同一の JFS 評価であれば JLPT 受験レベルが低くなるに従って認定率は高くなることが

比較的多くのセルで観察されたが、そのようにならない箇所もあった。JFS で A2 評価のケースがそれに該当し、N2 の認定率がより易しいレベルである N3、N4 よりも高い。以下ではこの点について、①測定対象の違い、②調査対象者の特性の違い から考察する。

① 測定対象の違い

「1. はじめに (調査の目的)」にあるように、JLPT が「言語知識 (文字・語彙、文法)」「読解」「聴解」の3つの能力の合計から合否を判定するのに対して、JFS は「産出 (話す・書く)」、「受容 (読む・聞く)」、「やりとり (話す・書く)」の5つを念頭に置きながらの総合判定を行う。前者の特色は言語知識を測っていることであり、一方、後者は産出 (話す・書く) も含む総合評価で、測定対象とする能力が異なったため結果が異なると考えられる。

② 調査対象者の特性の違い

本調査では、過去の JLPT 受験者割合等を意識して調査対象者のバランスをとったものの (表 4、5、6 参照)、図 1 の各セルに含まれる調査対象者の構成を検討すると、以下のような特性の違いが生じていた。

(A2、N2) の調査対象者では、海外の大学で日本語を主専攻として学ぶ漢字圏母語話者の学習者比率が高かった。一方、(A2、N3) の調査対象者ではそのような学習者の比率は低く、その差は全セル間で最大であった。すなわち、(A2、N2) と (A2、N3) を構成する調査対象者では、「母語」と「学習環境」という特性が異なっていた。なお、試行調査でも JFS 評価と JLPT 認定率の同様の傾向が逆転する部分が見られたが、これはおそらく調査対象者の特性 (職業) から来るものと結論付けられた。このように、セルに所属する学習者側のさまざまな特性にも目を向けることが必要である。

また、日本語国際センターの研修参加者は予備テストを受けておらず、独自のプレースメントテストによって JLPT 受験レベルを決定していた。この中には、N3 でなく N4 受験相当といえる調査対象者が若干名含まれていた。その結果、僅かであるが (A2、N3) の調査対象者において N3 の認定率を下げた可能性も考えられる。

5. おわりに

本報告書では、「JFS で特定のレベルにある日本語学習者に対して、適当な JLPT 受験レベル候補の参考情報を提供する」「特定レベルの JLPT 合格者に対して、該当する適当な JFS レベル候補についての参考情報を提供する」という目的のもと、2013 年から 2016 年にかけて行った調査の結果をまとめた。

調査の結果、JFS、JLPT の各レベル間において、一対一対応は見られなかった。これは測定対象とする能力が異なることが大きな要因の一つと考えられる。とは言え、グラフ全体を見渡した時、「JLPT を固定し、JFS レベルが上がると当該レベルの JLPT 認定率は高くなる」「JFS レベルを固定した場合、JLPT のレベルが低くなると JLPT 認定率が高くなる」という関係が比較的多くのセルで観察され、大まかな傾向を捉える手がかりになるだろう。

また、解釈の際には、たとえば学習者の母語や学習環境などの学習者の特性や、JLPT 各レベルで調査対象

者の認定率は本試験受験者全体のそれを上回っている（最大で N2 レベルで 27.2 ポイント上回っている）ことなども、重要な情報として念頭に置くことが必要である。

今後、JF スタンドは一層の充実と利便性向上に取り組んでいくとともに、JLPT はより受験者・関係者の期待にこたえるべく試験広報に取り組みたい。

ご協力いただいた関係者の皆様には、紙面を借りて、厚くお礼申し上げます。

【引用文献及びサイト】

国際交流基金日本語事業部（2012）「JF 日本語教育スタンダードに基づいたパフォーマンス評価 と日本語能力試験の合否判定との関係-国際交流基金研修参加者を対象とした試行調査-」

http://jfstandard.jp/information/attachements/000125/jfs_jlpt_report.pdf（2017 年 2 月 2 日）

吉島茂・大橋理枝他（2004）『外国語教育Ⅱ－学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社
みんなの Can-do サイト <http://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>（2017 年 2 月 2 日）

日本語能力試験 サイト <http://jlpt.jp/>（2017 年 3 月 22 日）

-
- i 現時点では、CEFR で行われた Can-do の尺度化、すなわち「すべての Can-do の困難度を検証によって共通尺度上に載せ、適切なレベルに振り分ける」という作業について、JFS が抱える Can-do を対象には行われていない。この検証を経て CEFR と共通尺度に載せることによって、日本語の熟達度を他言語と共通の尺度でより正確に評価することが可能になる。
 - ii 試行調査では JF Can-do の「産出（話す・書く）」「やりとり（話す・書く）」から調査票を作成したため「パフォーマンス評価」としたが、本調査では「受容（読む・聞く）」も総合評価に含めているため「パフォーマンス評価」という表現を用いない。そのため、試行調査とはタイトルが異なっている。なお、試行調査と同様、本調査でも調査対象者に Can-do の内容に沿ったタスクを課して実際の達成度みる、という評価方法ではない。
 - iii ただし、84 名のうち 69 名（82.1 %）は、技能別評価で 2 回現れたものが総合評価となっていた。
 - iv JLPT 認定率とは、受験者のうちの合格者の割合をいう。

添付資料①レベル評価表

調査対象者氏名:

各言語項目別の説明を左から順番に読んで、該当するレベルを選んでください。

Step 1: 言語項目別に5技能について評価してください。 →

Step 2: 各項目別の評価を総合的に判断し、A1-C2のいずれか1つのレベルを選んでください。 →

評価者氏名:

		A1	A2	B1	B2	C1	C2
理解すること	聞くこと	はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの)直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。標準語の映画なら大多数は理解できる。	たとえ構成がはっきりしてなくて、関係性が暗示されているにすぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。
	読むこと	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われている日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の関連外の分野での専門的記事も長い技術的説明書も理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、たとえばマニュアルや専門的記事、文学作品のテキストなど、事実上、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。
話すこと	やり取り	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいていの状況に対処することができる。例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	流暢に自然に会話することができ、母語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言にあわせることができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。自分を流暢に表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。表現上の困難に出会っても、周りの人がそれにほとんど気がつかないほどに修正し、うまく繕うことができる。
	表現	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	家族、周囲の人々、住居条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	複雑な話題を、派生的話題にも立ち入って、詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流暢に記述や論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。
書くこと	書くこと	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙なら書くことができる。例えば礼状など。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	適当な長さでいくつかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。	明瞭な、流暢な文章を適切な文体で書くことができる。効果的な論理構造で事情を説明し、その重要点を読み手に気づかせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。
	評価						

赤枠の中に該当するレベル1か所にチェックを入れてください。

★総合評価

備考	「言語項目別評価」や「総合評価」を出す際、困ったり迷ったりしたことがあったら、ご記入ください。(例:「A2とB1のボーダーだと思う。/ 聞くについてはクラスで様子を見て評価した。」)
----	---

添付資料②レベル評価表の注釈A1

レベル		Can-do本文(日本語)	Can-do本文(英語)	
A1	理解すること	聞こくこと	はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	
		聞こくこと	自分に向かってゆっくりとはっきりと話されれば、「よく休んでください」「薬を1日3回飲んでください」など、医者のごく簡単な指示を聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand very simple instructions from the doctor, such as "get some rest" "take the medicine three times a day," if the speech is aimed directly at oneself and is slow and clear.
		聞こくこと	ゆっくりとはっきりと話されれば、「教科書を開いてください」「教科書を読んでください」などの授業中の教師のごく簡単な指示を聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand very simple classroom instructions from the teacher such as "open your textbook" "read aloud" if the speech is slow and clear.
		読むこと	例えば、掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	
		読むこと	ファーストフード店やレストランなどでメニューを見て、自分が知っている食べ物や飲み物の名前など、いくつかの情報を理解することができる。	Can look at the menu in, for example, fast food restaurants, and understand some pieces of information, such as the names of food and drink one already knows.
		読むこと	海外の店の「レストランさくら」など、ごく簡単な日本語で書かれた看板を見て、ローマ字や母語などを手がかりに、行きたい店を探し出すことができる。	Can look at restaurant signs written in simple Japanese such as "Restaurant Sakura", and use the words written in Roman alphabet, one's native language and so on as clues to look for the restaurant one wants to go to.
	話すこと	やりとり	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。	
		やりとり	友人と家族写真を見せ合いながら、家族の仕事や年齢などを簡単な言葉でたずねたり、答えたりすることができる。	Can ask a friend questions and answer his/her questions in simple terms about how old people are and what their jobs are while showing each other family photographs.
		やりとり	友達になった人とお互いの携帯電話の番号を教え合うことができる。	Can exchange phone numbers with someone who one just become friends with.
		やりとり	映画館などの窓口で切符を買うために、映画の名前や枚数などを言うことができる。	Can say the name of the movie, the number of tickets, etc. in order to buy tickets at, for example, a ticket window of a movie theater.
		表現	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	
		表現	日本語の最初の授業など、初めて会う人のグループの中で自己紹介するとき、自分の家族の人数と構成を、簡単な言葉で言うことができる。	Can say in simple terms the composition of and number of people in one's family when one introduces oneself to a group of people for the first time such as in the first lesson of a Japanese course.
	書くこと	書くこと	友人の家で、友人の家族などと基本的な挨拶をし、自分の近況などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。	Can tell a friend who is in the photo, where it was taken, etc. while showing the friend photos of family members and pets.
書くこと		新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。		
	書くこと	モデル文があれば、「ご結婚おめでとうございます」「お幸せになってください」など、友人の結婚式で読み上げる短いお祝いの言葉を書くことができる。	Can write short congratulatory words such as "congratulations on your marriage" "I wish you much happiness" to read out at a friend's wedding party, if there are model sentences one can refer to.	

レベル評価表の注釈A2

レベル	Can-do本文(日本語)	Can-do本文(英語)		
A2	理解すること	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの)直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。		
		短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。		
		聞くこと ゆっくりとはっきりと話されれば、ラジオで、自分の町や近くの町についての簡単な情報を聞いて、いつどこでお祭りがあるかなど、いくつかの情報を理解することができる。	Can listen on the radio simple information about one's town or a nearby town, and understand some pieces of information such as when and where a festival will take place, if the speech is slow and clear.	
		デパートなどで、閉店時間や催し物の案内などの簡単な店内放送を聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand simple in-store announcements at, for example, a department store, about closing time, special events, etc.	
		読むこと ごく短い簡単なテキストなら理解できる。		
		簡単なセリフで書かれていれば、四コマ漫画を読んで、内容をだいたい理解することができる。	Can read a four-frame comic strip and mostly understand the content, if the dialogue is written in simple terms.	
	読むこと	広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。		
		店に貼り出している求人広告などの短い簡単なテキストを見て、時給や勤務時間など、必要な情報を探し出すことができる。	Can look at short simple texts in, for example, a help-wanted ad on a store window, and find the necessary information such as work hours and pay.	
		ごみ収集所の掲示などの短い簡単なテキストを見て、捨てたいごみは何曜日に捨てられるかなど、必要な情報を探し出すことができる。	Can look at short simple texts on, for example, a sign at a garbage collection site, and find the necessary information such as what day of the week one can dispose of a certain kind of garbage.	
		話すこと	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要なならば、身近な話題や活動について話し合いができる。	
			やりとり 友人と外出や旅行をするために、行き先や日程などについて、短い簡単な言葉で話し合うことができる。	Can discuss in short simple terms destinations, time schedules, etc. to go out or go on a trip with friends.
			デパートなどの店員に、買いたい物の売り場がどこにあるかなどについて質問し、いくつかの簡単な答えを理解することができる。	Can ask questions to a clerk at a department store, for example, about where to find what you want to buy etc. and understand a few simple answers.
	通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。			
	表現	友人の家で、友人の家族などと基本的な挨拶をし、自分の近況などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。	Can greet with basic expressions a friend's family, etc. at their home, and talk in short simple terms about one's recent news and other topics.	
		校内のエレベーターなどで居合わせたゼミの先生などと、基本的な挨拶をし、自分の近況などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。	Can greet with basic expressions an university professor one meets in a school elevator, for example, and talk in short simple terms about one's recent news and other topics.	
		家族、周囲の人々、住居条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。		
	書くこと	書くこと 直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。		
		自分自身や家族、仕事、趣味など、基本的なことについての自己紹介文を短い簡単な文でブログなどに書くことができる。	Can write in short simple sentences a blog entry or a similar piece of writing introducing oneself with basic information such as family, jobs, hobbies, etc.	
家族や友人に、ホームステイ中の出来事などについて、短い簡単な文ではがきやメールなどを書くことができる。		Can write in short simple sentences a letter, e-mail, etc. to one's family and friends about, for example, events that occurred during a homestay.		

レベル評価表注釈B1

レベル	Can-do本文(日本語)	Can-do本文(英語)	
B1	聞くこと 理解すること	仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	
		発音と内容がはっきりしていれば、観光ガイドによる名所や名物などの簡単な説明を聞いて、主要な情報を理解することができる。	Can listen to simple explanations about famous sights, local specialties and other features by a tour guide and understand the main pieces of information, if the pronunciation is clear and the content is well-articulated.
		発音がはっきりしていれば、ホストファミリーから日本の家でのスリッパの使い分け方など、生活に関する説明を聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand explanations from one's host family about aspects of daily life such as the proper use of slippers in a Japanese home, if the pronunciation is clear.
		話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	
		発音がはっきりしていれば、駅のホームや電車の中などで、事故や災害など非常時のアナウンスを聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand announcements about accidents, natural disasters, and other emergencies at a train station, inside a train, etc., if the pronunciation is clear.
		観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップを頼りに、取り上げられているテーマの主要な点を理解することができる。	Can watch a television program introducing a sightseeing area, for example, and by making use of the visuals and subtitles understand the main points of the program's theme.
		起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	
	読むこと	旅行中の出来事や感想などが、ある程度詳しく書かれた家族や友人からの手紙やメールを読んで、大部分の内容を理解することができる。	Can read a letter from one's family or friends written in some detail about what happened during a trip and how the senders felt about it, and understand most of the content.
		感謝の気持ちや近況などについて、ある程度詳しく書かれた友人からのお礼の手紙やメールなどを読んで、大部分の内容を理解することができる。	Can read and understand a letter or e-mail from a friend written in some detail about feelings of gratitude and recent news, and understand most of the content.
		非常によく使われている日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。	
		簡単なセリフで書かれていれば、漫画を読んで、あらすじを理解することができる。	Can read and understand the plot of a comic, if the dialogue is written in simple terms.
		旅行雑誌やガイドブックなどの、ある程度長い文章に目を通して、名所や名物の特徴など、行き先を決めるために必要な情報を探し出すことができる。	Can look through texts of some length in, for example, a travel magazine or guide book, and find the information necessary to decide on a destination, such as the features of famous sights and local specialties.
		当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいいの状況に対処することができる。	
		やりとり	友人の家で、友人の家族などと基本的な挨拶をし、自分の近況などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。
飲食店などで、注文の間違いなどの問題が生じたとき、ある程度詳しく状況を説明し、苦情を言うことができる。	Can explain the situation in some detail and make a complaint to a store clerk when a problem, such as a wrong order at a restaurant, occurs.		
例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。			
映画やドラマなどの内容について、友人や家族と簡単なコメントや意見を交換することができる。	Can make simple comments or exchange opinions with friends and family about the contents of a movie or drama, for example.		
旅行中に会った人にお勧めの場所や店などの詳しい情報を、質問したり、答えたりすることができる。	Can ask for or give detailed information about recommended places or stores, for example, to someone you meet while traveling.		

B1

話すこと	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るができる。	
	お土産を渡しながら、休み中に行った場所や出来事などについて、まとまりのある話を友人に語るができる。	Can narrate to a friend about places one visited and events that occurred during a vacation etc., while giving the friend a souvenir.
	自分の得意な料理の作り方などを順序だてて友人に説明することができる。	Can explain in sequence the recipe of one's specialty dish, for example, to a friend.
	スポーツなど、よく知っているゲームの簡単なルールなどを順序だてて友人に説明することができる。	Can explain in sequence the simple rules, for example, of a familiar game, such as a sport, to a friend.
	子供時代の習い事や学校生活などについて、その当時の夢などと関連付けながら、友人に話すことができる。	Can talk to a friend about one's school life or lessons one took as a child, for example, while associating them with, for example, the dreams one had in those days.
	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。	
	朝のジョギングなど、自分の健康法について、始めた理由などを簡単にあげながら、友人に話すことができる。	Can talk to a friend about how one stays healthy, such as by jogging in the mornings, giving simple details such as why one started jogging, for example.
	大学のゼミのディスカッションで、簡単な説明や理由を交えて自分の意見を述べるができる。	Can express one's opinion, giving simple explanations and reasons, in a discussion during an university seminar.
	物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	
	表現	ガイドとして有名な観光地などを案内するとき、あらかじめ準備してあれば、名所や名物などを、ある程度詳しく紹介することができる。
推理小説やドラマの途中までの展開から、自分が推理した犯人と犯行動機などを、簡単な理由を挙げながら友人に説明することができる。		Can explain, giving simple reasons, to a friend about the identity of the criminal and his/her motive one speculated from what one had read or seen so far in a mystery novel or a drama.
身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。		
書くこと	自分自身の長所や短所など、簡単な自己PR文を就職のための提出書類に書くことができる。	Can write a simple piece of writing promoting oneself, including one's strengths, weaknesses, etc. on a job application form.
	学校のクラブやサークルの活動などを紹介するインタビュー記事を、ある程度詳しくニュースレターなどに書くことができる。	Can write in some detail an article based on an interview introducing, for example, an after-school club or group's activities, for a newsletter or other media.
	私信で経験や印象を書くことができる。	
	お世話になった人に、感謝の気持ちや近況などについて、ある程度詳しくお礼の手紙やメールなどを書くことができる。	Can write in some detail a letter, e-mail, etc. to thank someone for their help or hospitality and report one's recent news, etc.
	家族や友人に、ホームステイ中の出来事や感じたことについて、ある程度詳しく手紙やメールなどを書くことができる。	Can write in some detail a letter, e-mail, etc. to one's family and friends about events one experiences and thoughts one had during a homestay.

レベル評価表注釈B2

レベル	Can-do本文(日本語)	Can-do本文(英語)					
B2	理解すること	聞く	長い会話や講義を理解することができる。				
			観光地で、建築物の特徴や歴史の変遷などについて、ガイドによる詳しい説明を聞いて、要点を理解することができる。	Can listen to detailed explanations by a guide at a sightseeing area about, for example, the features of buildings and historical transitions, and understand the main points.			
			また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。				
			所属する学会の研究会などで行われる講演や発表を、スライドやハンドアウトなどを見ながら聞いて、要点を理解することができる。	Can listen to a lecture or presentation during a seminar held by an academic society one belongs to, for example, while looking at slides, handouts, etc., and understand the main points.			
			たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。				
			男性社員の育児休暇制度など、社会的な問題に関するテレビニュースなどを見て、制度を取り入れている企業の考え方やその論拠などを理解することができる。	Can watch television news, etc. about social issues such as the paternity leave system and understand how the companies with such systems think, their reasoning for adopting them, etc.			
			標準語の映画なら大多数は理解できる。				
			人間ドラマやラブロマンスなどの映画を見て、話の筋を追い、登場人物がどのように葛藤や障壁を乗り越えたかなどを理解することができる。	Can watch a movie such as a human drama or romance, follow the storyline and understand how the characters overcome conflicts and obstacles, etc.			
			現代文学の散文は読める。				
			SF短編小説などを読んで、出来事の経過や登場人物の行動の動機など、内容を理解することができる。	Can read a short science fiction story, for example, and understand such content as the events and the motives for the characters' actions.			
			筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。				
			環境問題などに関する新聞の社説を読んで、新たな情報や筆者の立場・主張とその論拠などを理解することができる。	Can read a newspaper editorial about environmental issues, for example, and understand new information, the writer's position and reasoning, etc.			
			B2	話すこと	やりとり	流暢に自然に会話することができ、母語話者と普通にやり取りができる。	
						友人の家で、友人の家族などと基本的な挨拶をし、自分の近況などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。	
職場の休憩時間などに、同僚たちと、新入社員の服装や行動についておしゃべりをしているとき、議論の流れやそれぞれの意見のポイントなどを理解し、論拠を示しながら自分の考えを述べたり、反論に対応したりすることができる。	Can understand the flow of the discussion and the points of each different opinion, explain one's ideas and reasoning, respond to opposing opinions, etc., when talking with coworkers during break time at work, for example, about the new employees' clothing or behavior.						
自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。							
職場の企画会議などで、あらかじめ準備してあれば、自分の企画案について図表やグラフなどを示しながら、明確に詳しく説明し、質問に的確に対応することができる。	Can explain articulately and in detail one's own proposal and respond appropriately to questions, while showing diagrams, graphs, etc., at, for example, a planning meeting at one's workplace, if one has prepared beforehand.						
時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。							
テレビニュースや新聞記事をきっかけに、貿易自由化などの社会的な問題について、会社や業界への影響などと関連づけながら、同僚に自分の視点を明確に述べるることができる。	Can articulate to a coworker one's point of view about a social issue such as trade liberalization while making connections to its impact on the company or industry, for example, triggered by television news or a newspaper article.						
書くこと	書く	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。					
		エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。					
		通販サイトの本のレビューコーナーなどに、自分が読んだ本の書評を、自分なりの視点で、明瞭に詳しく書き込むことができる。				Can write clearly and in detail from one's own point of view a review of a book that one has read, for the book review section of an online retail site, etc.	
		手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。					
		旅行中の出来事や感じたことについて、以前持っていたその地域に対する印象との違いを強調しながら、友人に、手紙やメールを詳しく書くことができる。				Can write a detailed letter or e-mail to a friend, emphasizing how different the area one travelled to is from one's prior impressions, about events that occurred and thoughts one had during a trip.	